

# 2014年3月期 決算説明資料

人々の暮らしと流通企業のビジネス活動を  
情報システム技術で融合し、  
豊かな社会の実現に貢献します。



株式会社 ヴィンクス

2014年5月28日

JASDAQ

証券コード：3784

## 1. 2014年3月期 決算概要

- 決算ハイライト
- 当期の主な取組み
- 連結/個別P L
- 分野別業績
- 受注高/受注残高の推移
- 財務状況（前期末比較）
- キャッシュ・フローの状況

## 2. 中期経営計画（2014年度-2016年度）

- 4つの基本戦略
- 新たな数値フレーム
- 2015年3月期 数値計画（連結・個別）
- 当期及び次期の配当見通し

# 1. 2014年3月期 決算概要

## ・ 計画対比について

売上高につきましては、消費税法改正によるシステム変更需要や海外案件が順調に推移したものの、国内の特定顧客向け新規大型案件の進捗が遅れたことなどの影響により、計画値は未達となりました。

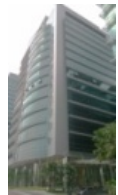
しかし利益面につきましては、海外投資に一定の費用を費やしたものの、経営統合による業務部門の稼働率が向上したことや、スタッフ部門の効率化が奏功したことなどにより事業全体のコスト削減が図られ、前回発表予想値を大幅に上回りました。

(連結、金額：百万円、百万円未満切捨)

科目名	前期 (2013/3期)	当期 (2014/3期)		前期比較	
		計画値	実績	増減額	比率 (%)
売上高	10,836	28,000	27,271	16,435	251.7%
営業利益	80	1,330	1,522	1,442	1898.2%
経常利益	132	1,290	1,509	1,377	1135.7%
当期純利益	59	620	824	765	1384.3%

## 中国・アセアン地域への事業拡大

### マレーシア事務所移転

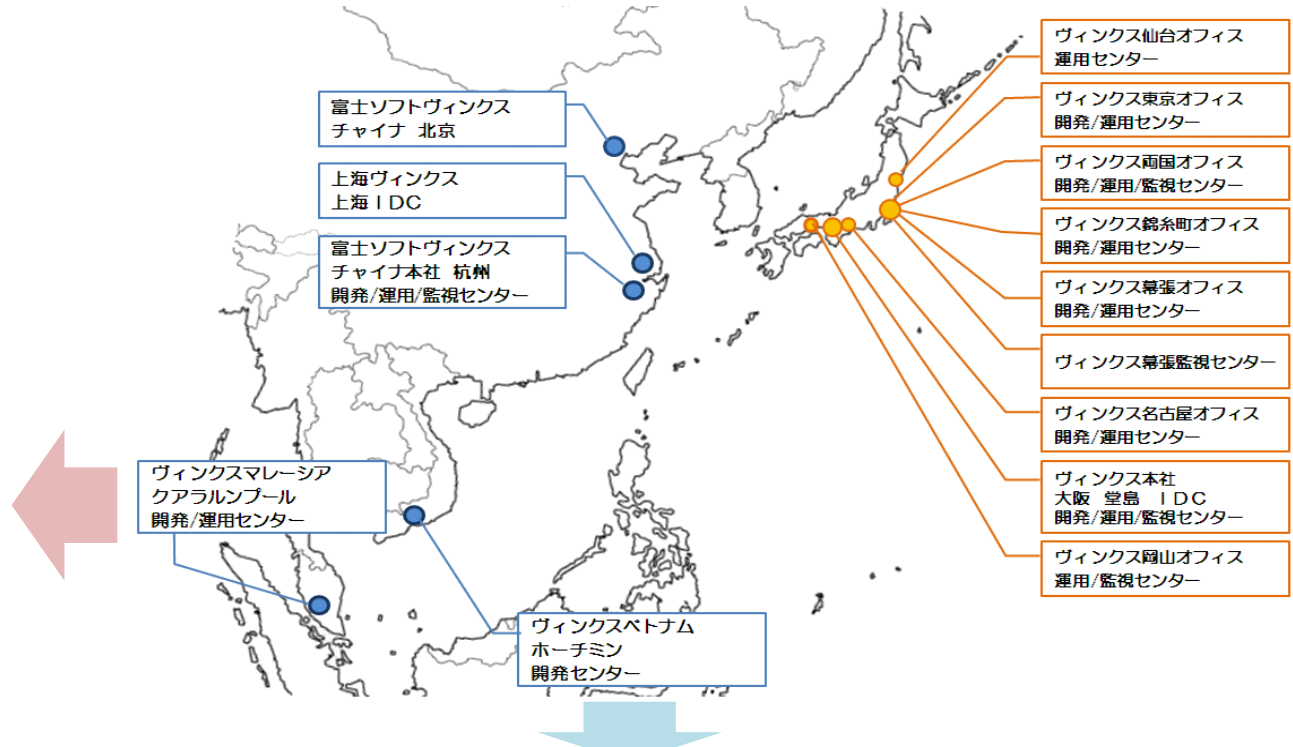


2013年7月  
アセアンビジネスの拡大に向け、マレーシア現地法人「ヴィンクスマレーシア」の事務所を移転しました。

### イオンBIG様システム移行を全面的にサポート



2013年10月  
イオン様がカルフル社より引き継いだ28店舗（イオンBIG様）のシステム移行を全面サポートし、無事その移行を完了させました。



### ベトナム現地法人「ヴィンクスベトナム」設立



ヴィンクスベトナム開所式の模様

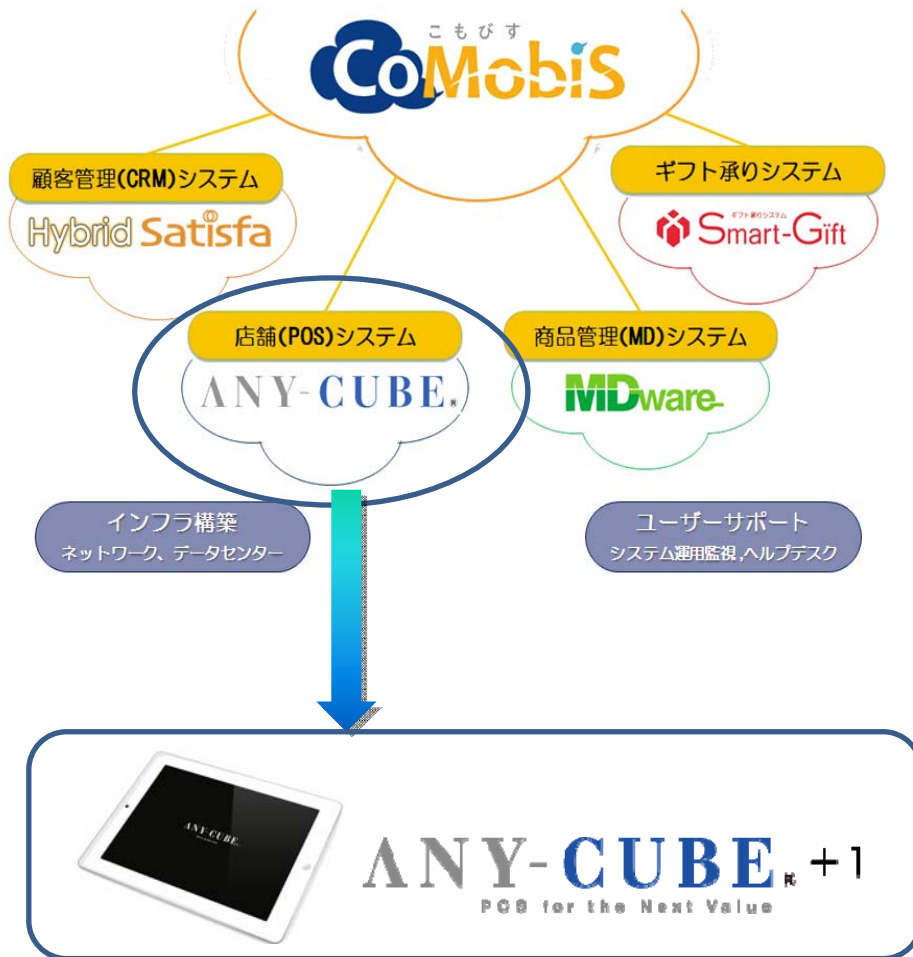
2014年1月  
アセアン地域における大手総合小売業グループ向けのサポート拠点及び開発拠点として、産業の中心地、ホーチミンに事務所開設しました。



2014年1月  
ベトナム最大級のショッピングセンターのシステムを全面的にサポートし、無事に開業させました。

## クラウド&モバイル店舗コンセプト「CoMobiS」をリリース

### CoMobiSコンセプトイメージ



### CoMobiS 第1弾

ANY-CUBE+1 をリリースしました。

「ヤフー様社内カフェ」に、当社の iPad 版タブレット POS が採用されました。

その後も有名料理研究家プロデュースの店舗（レストラン & 生活雑貨ブランドの販売店）等にも採用されています。

### タブレットPOSの構成



ヤフー様社内カフェ



### 海外進出に向けた戦略的業務提携を実施

#### ＜ Wincor Nixdorf社との業務提携＞

2014年1月8日、中国・アセアン地域における戦略的パートナーとして、Wincor Nixdorf社と戦略的業務提携を行いました。

中国及びアセアン地域で展開する流通・サービス業を主対象として、店舗システムからバックオフィスのシステムまで包括的コンサルティング・ソリューションサービスを提供してまいります。

**WINCOR  
NIXDORF**



#### 【戦略的業務提携によるメリット】

- ①両社が保有する顧客基盤、技術力、ビジネスノウハウを効率的かつ有効活用することにより、これまで以上に付加価値の高い総合ITサービスの提供が可能
- ②中国及びアセアン地域に進出する日系の流通・サービス企業における会社設立支援など、両社が現地にて培った経験やビジネスノウハウを活用した高品質なソリューションサービスをワンストップで実現
- ③両社の営業情報を共有することにより、新規顧客に対してはシステム化コンサルティングを切り口とした案件獲得を促進させ、既存顧客に対しては更なる企業価値向上に向けたソリューションサービスの提供が可能

# 2014年3月期 連結/個別P L



## 連結

単位：百万円、% 百万円未満切り捨て

	通期		開示対比				前年対比			
	実績値	売上比	開示値	開示比	開示差	売上比	前年値	前年比	前年差	売上比
売上高	27,271	-	28,000	97.4	▲ 729	-	10,836	251.7	16,435	-
売上総利益	5,424	19.9	5,290	102.5	134	18.9	1,818	298.3	3,606	16.8
販売管理費	3,901	14.3	3,960	98.5	▲ 59	14.1	1,738	224.5	2,163	16.0
営業利益	1,522	5.6	1,330	114.4	192	4.8	80	1902.5	1,442	0.7
経常利益	1,509	5.5	1,290	117.0	219	4.6	132	1143.2	1,377	1.2
当期利益	824	3.0	620	132.9	204	2.2	59	1396.6	765	0.5

## 個別

単位：百万円、% 百万円未満切り捨て

	通期		開示対比				前年対比			
	実績値	売上比	開示値	開示比	開示差	売上比	前年値	前年比	前年差	売上比
売上高	24,879	-	26,100	95.3	▲ 1,221	-	9,274	268.3	15,605	-
売上総利益	5,137	20.6	4,880	105.3	257	18.7	1,502	342.0	3,635	16.2
販売管理費	3,471	14.0	3,630	95.6	▲ 159	13.9	1,404	247.2	2,067	15.1
営業利益	1,666	6.7	1,250	133.3	416	4.8	98	1700.0	1,568	1.1
経常利益	1,643	6.6	1,190	138.1	453	4.6	98	1676.5	1,545	1.1
当期利益	933	3.8	550	169.6	383	2.1	24	3887.5	909	0.3



## アウトソーシング分野

（システム運用・管理サービス、保守、ヘルプデスクサービス、ASPサービス等）

- ・ 大手特定顧客様の国内及び海外における業務運用受託が堅調に伸びたことにより、売上、利益ともに計画を達成致しました。

単位：百万円、% 百万円未満切り捨て

＜連結＞	連結累計		計画対比				前年対比			
	実績値	*比率	計画値	計画比	計画差	*比率	前年値	前年比	前年差	*比率
売上高	14,212	52.1%	13,032	109.1%	1,180	46.5%	4,765	298.2%	9,447	44.0%
売上総利益	2,581	18.2%	2,414	106.9%	167	8.6%	503	513.1%	2,078	4.6%
営業利益	634	4.5%	607	104.4%	27	2.2%	▲ 40	—	675	—

※比率・・・売上高は売上構成比、売上総利益及び営業利益は利益率を表示しております。  
（分野別売上総利益算出において、間接原価は含まれておりません。）

## ソリューション分野

（流通サービス業基幹システム、クレジットカードシステム、Webシステムの開発）

- ・ 予定していた大手顧客様の大型案件が来期以降に先送りになった影響等で、各計画数値は未達となりました。  
しかしシステム開発の原価管理を強化したことにより、営業利益率は前年と比較して大幅に改善しました。

単位：百万円、% 百万円未満切り捨て

＜連結＞	連結累計		計画対比				前年対比			
	実績値	*比率	計画値	計画比	計画差	*比率	前年値	前年比	前年差	*比率
売上高	8,690	31.9%	9,640	90.1%	▲ 950	34.4%	3,761	231.1%	4,929	34.7%
売上総利益	2,023	23.3%	2,011	100.6%	12	20.9%	573	353.2%	1,450	15.2%
営業利益	632	7.3%	506	124.9%	126	5.2%	63	991.5%	569	1.7%

※比率・・・売上高は売上構成比、売上総利益及び営業利益は利益率を表示しております。  
（分野別売上総利益算出において、間接原価は含まれておりません。）

## プロダクト分野

（流通サービス業向けパッケージ開発、販売）

- ・消費税率変更への対応等の影響により、顧客の新規プロダクト導入が先送りになり、製品販売が計画通りに進まず、計画値および前年値は未達となりました。

単位：百万円、% 百万円未満切り捨て

＜連結＞	連結累計		計画対比				前年対比			
	実績値	*比率	計画値	計画比	計画差	*比率	前年値	前年比	前年差	*比率
売上高	961	3.5%	1,065	90.2%	▲ 104	3.8%	997	96.4%	▲ 36	9.2%
売上総利益	395	41.1%	480	82.3%	▲ 85	45.1%	436	90.6%	▲ 40	43.7%
営業利益	118	12.3%	120	98.3%	▲ 2	11.3%	37	317.4%	81	3.7%

※比率・・・売上高は売上構成比、売上総利益及び営業利益は利益率を表示しております。  
（分野別売上総利益算出において、間接原価は含まれておりません。）

## その他 I T 関連分野

（ハードウェア販売、ハードウェア及びミドルウェア保守サービス等）

- ・ 予定していた大手顧客様の大型案件が来期以降に先送りになった影響等で、ハードウェアおよびミドルウェアの販売が進まず計画未達となりました。

単位：百万円、% 百万円未満切り捨て

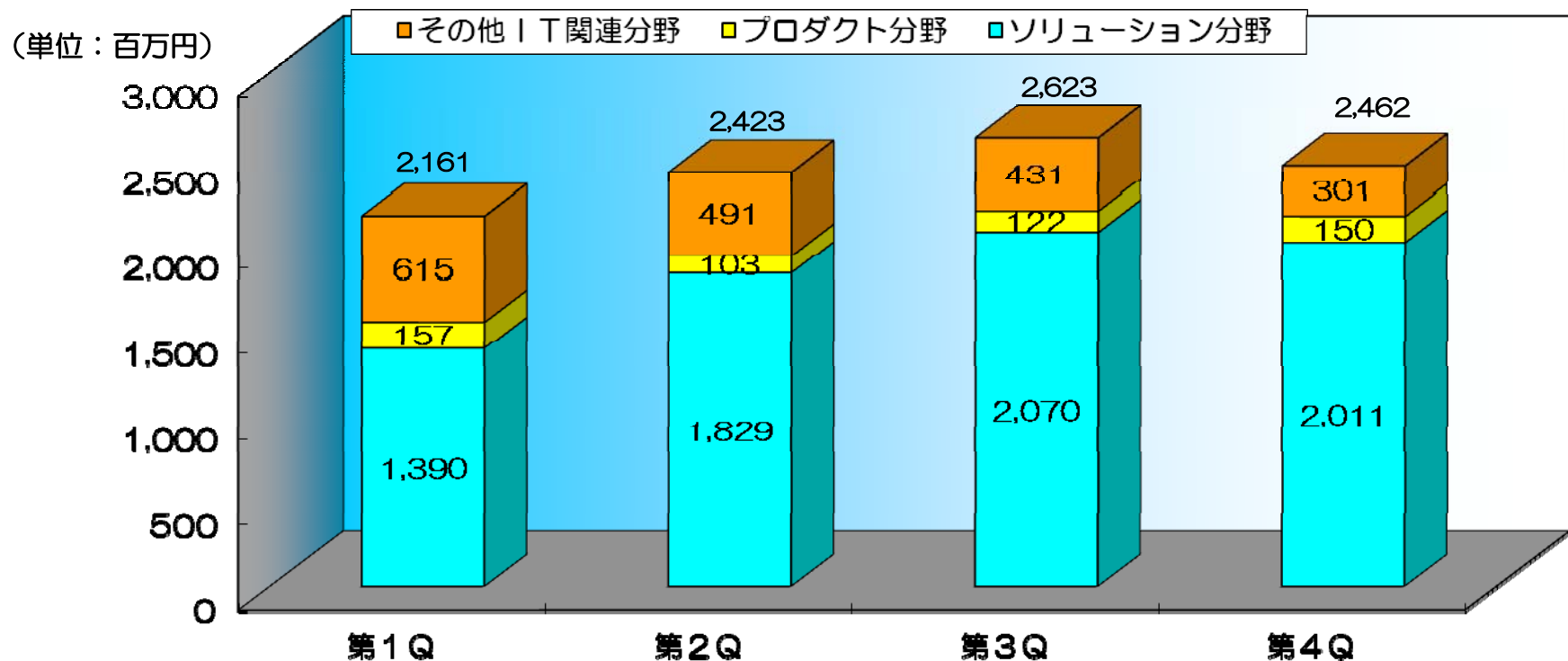
＜連結＞	連結累計		計画対比				前年対比			
	実績値	*比率	計画値	計画比	計画差	*比率	前年値	前年比	前年差	*比率
売上高	3,406	12.5%	4,263	79.9%	▲ 857	15.2%	1,312	259.7%	2,094	12.1%
売上総利益	422	12.4%	385	109.6%	37	9.0%	305	138.2%	116	23.2%
営業利益	137	4.0%	97	141.2%	40	2.3%	19	686.0%	117	1.4%

※比率・・・売上高は売上構成比、売上総利益及び営業利益は利益率を表示しております。  
（分野別売上総利益算出において、間接原価は含まれておりません。）

# 受注高・受注残高の推移 <連結>



## <受注残高の推移>



2014年3月期(2013年4月~2014年3月)

## <受注高の推移>

(単位：百万円)

	2014年3月期			
	第1Q	第2Q	第3Q	第4Q
ソリューション分野	2,123	2,547	2,317	2,565
プロダクト分野	155	215	160	292
その他IT関連分野	4,685	4,250	4,204	4,209
合計	6,963	7,012	6,681	7,066

# 財政状況（前期末比較）



## 【貸借対照表】

単位：百万円、% 百万円未満切り捨て

区分	2014年 3月期末		2013年 3月期末	差額
		構成比		
流動資産	10,392	67.6%	4,910	5,482
固定資産	4,984	32.4%	1,997	2,987
＜有形固定資産＞	1,902	12.4%	653	1,249
＜無形固定資産＞	1,559	10.1%	671	888
＜投資その他の資産＞	1,522	9.9%	672	850
資産合計	15,376	100.0%	6,908	8,468
流動負債	5,082	33.1%	2,456	2,626
固定負債	4,572	29.7%	671	3,901
負債合計	9,654	62.8%	3,127	6,527
純資産	5,721	37.2%	3,781	1,940
負債・純資産 合計	15,376	100.0%	6,908	8,468

### 【貸借対照表のポイント】

資産については、合併等の影響により、84億68百万円増加しました。  
 主な増加の内訳は、以下の通りです。

- ・現金及び預金（17億96百万円増加）
- ・受取手形及び売掛金（18億97百万円増加）
- ・有形固定資産（12億48百万円増加）

負債については、合併等の影響により、65億27百万円増加しました。  
 主な増加の内訳は、以下の通りです。

- ・買掛金（10億17百万円増加）
- ・長期借入金（18億30百万円増加）
- ・退職給付金に係る負債（20億77百万円増加）

純資産については、19億40百万円増加しました。  
 主な増加の内訳は、以下の通りです。

- ・資本剰余金（11億25百万円増加）

# キャッシュ・フローの状況



単位：百万円、百万円未満切り捨て

税金等調整前当期純利益	1,506
減価償却費	1,355
のれん償却額	37
持分法による投資損益	1
売上債権の増減額（△は増加）	321
たな卸資産の増減額（△は増加）	86
仕入債務の増減額（△は減少）	△650
未払金の増減額（△は減少）	△154
その他	485
小計	2,989
法人税等の支払額等	△506
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,482
有形固定資産の取得による支出	△491
無形固定資産の取得による支出	△324
その他	△228
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,043
社債、借入金の返済による支出	△1,495
配当金の支払額	△118
ストックオプションの行使による収入	50
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,562
現金及び現金同等物に係る換算差額	44
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△79
現金及び現金同等物の期首残高	1,565
合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	1,876
現金及び現金同等物の当期末残高	3,362

## 【キャッシュ・フロー計算書のポイント】

- ・ 営業キャッシュ・フローは、当期純利益等により、24億89百万円となりました。
  - ・ 投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得等による支出により、△10億43百万円となりました。
  - ・ 財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入金の返済等により、△15億62百万円となりました。
- 上記の結果、現金及び現金同等物の当期末残高は、33億62百万円となりました。

## 2. 中期経営計画（2014年度-2016年度）

「アジアにおける流通ITのリーディングカンパニーを目指す」

を経営ビジョンとして、経営統合により強化された競争力のもと、既存の3つの基本戦略を主軸に新たに1つの戦略を加え、更なる事業成長と安定的な収益の両立を図ってまいります。



## ＜中期経営計画・基本戦略について＞

2013年策定の中期経営計画の基本戦略より「特定顧客化戦略」「グローバル戦略」「商品・サービスの差別化戦略」の3つの基本戦略は継続し推進致します。

また今後の事業拡大を加速するために、「経営基盤の強化」を4番目の戦略として推進して参ります。

## 事業成長と安定的な収益基盤確立の両立



# (1) 特定顧客化戦略



## 特定顧客事業の拡大と新たな特定顧客の開拓

### ① 特定顧客事業の拡大

#### (1) 大手既存顧客に対する事業範囲の拡大

- ・ 既存特定顧客の新規事業への進出に対するシステムサポートを強化  
⇒ オムニチャネル等の新たな情報インフラの企画から構築、運用まで全面的に支援
- ・ 海外出店・海外事業拡大に対する情報システムの全面的サポートを展開  
⇒ アセアン地域への出店・拡大に向け、VMC (ヴァイクスマレーブ) とVVC (ヴァイクスバトム) の体制強化

#### (2) 新規顧客を特定顧客へ、取引範囲の拡大と深耕

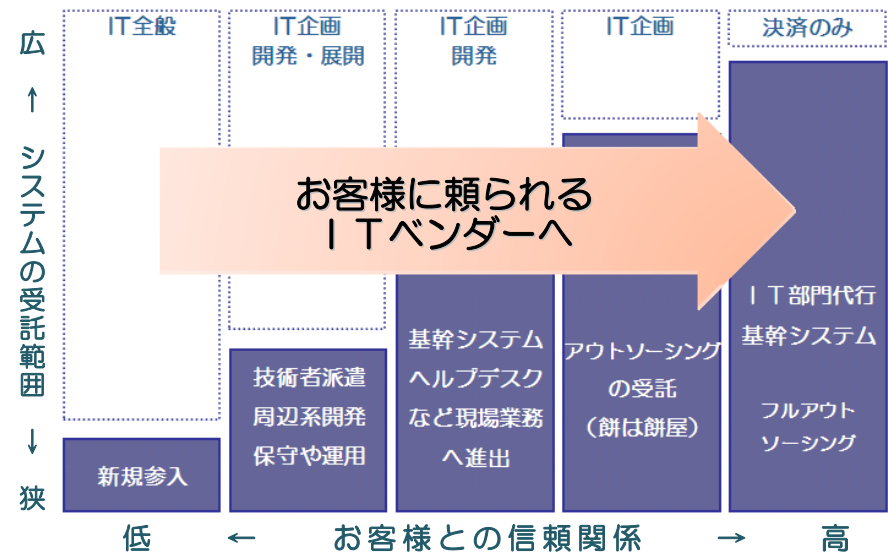
⇒ 新規顧客に対する提案型営業を強化し、囲い込みを推進

### ② 新規特定顧客の開拓

- (1) 業界トップクラスの優良企業への導入実績を武器に新たな顧客を開拓
- (2) リテールテックやホームページを活用した企業ブランドイメージの向上

### ③ ストックビジネスの拡大

- (1) 小売業様の業務を知り尽くしたシステム保守とヘルプデスクの展開
- (2) 24時間365日の運用監視サービス



## (2) グローバル戦略

VINX

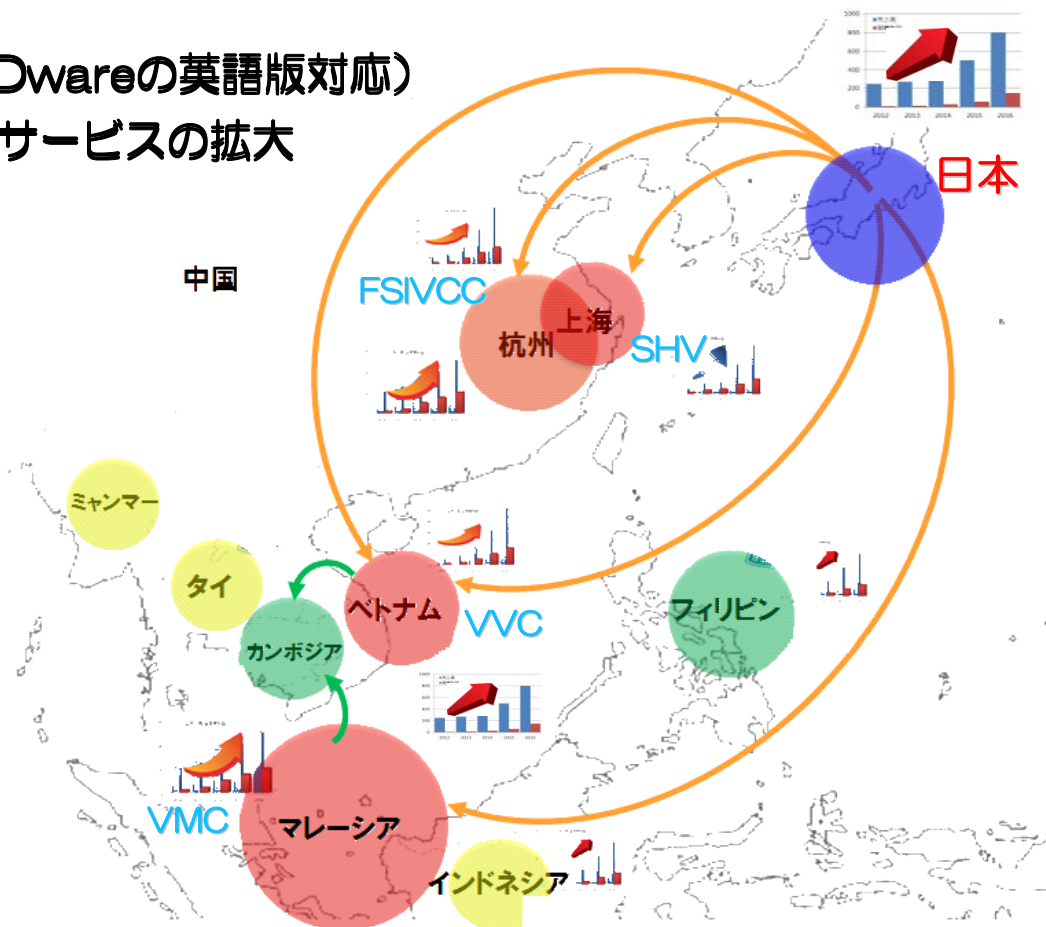
### 海外子会社の収益改善

- ① アセアン拠点の拡大
- ② IT運用サービスの拡大
- ③ 海外向けパッケージ製品の展開 (MDwareの英語版対応)
- ④ 中国・アセアン地域の現地企業向けサービスの拡大



#### ◇ 海外子会社の収益改善

- ・ FSIVCC (富士リフト ヴィクスチャイ)
  - ⇒ IT運用サービス拠点としての確立
- ・ VMC (ヴィクスマレーシア)
  - ⇒ 大手流通グループ関連事業のサポート範囲を拡大
- ・ VVC (ヴィクスベトナム)
  - ⇒ 大手特定顧客のベトナム出店サポートの拡大
  - ⇒ オフショア拠点としての確立



# (3) 商品・サービスの差別化戦略

## プロダクト事業の拡大

### CoMobiSを中心としたクラウドサービスの事業化

#### (1) オムニチャネルへの対応

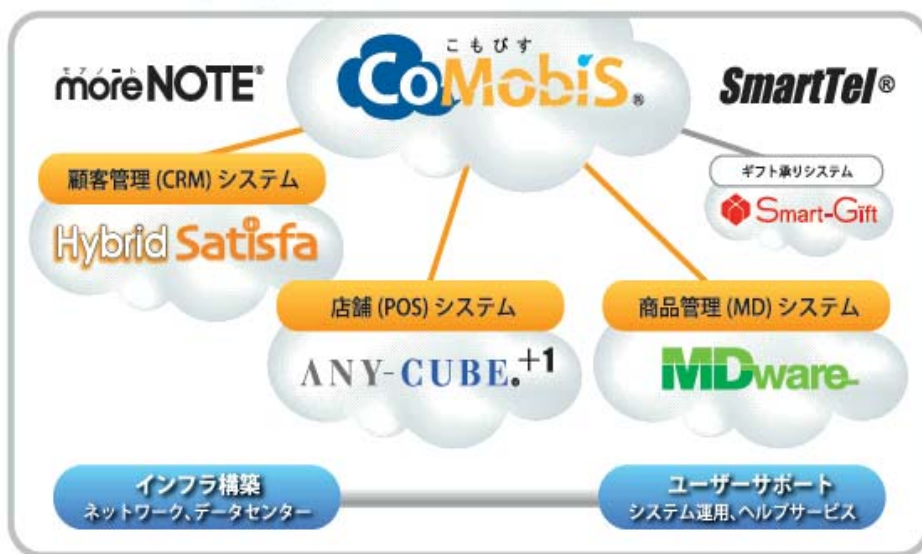
- ・インターネット販売と実店舗の融合による統合顧客管理・ポイント管理及び販促ツールの拡充

#### (2) タブレットPOS (ANY-CUBE+1) の機能拡充

- ・OES連携、対象タブレットの拡充など

#### (3) 商品管理 (MD) システムのクラウド化対応

- ・商品管理システム「MDware」の英語版対応、クラウド化対応



### ANY-CUBE.+1

iPad対応/アンドロイド対応 タブレットPOS



- タブレットPCが
- ①POSレジに
- ②発注業務端末に
- ③ギフトの承り端末に
- ④情報照会端末に

小売業が必要な機能を  
オールインワンで提供  
それが「CoMobiS」

# (4) 経営基盤の強化



## 経営基盤の強化による収益性のさらなる向上

### 1. 事業継続基盤の強化

- ・ 継続的な事業成長を支える経営管理体制及び事業基盤を強化。

### 2. 品質とプロジェクト管理の強化

- ・ 各プロジェクトにおける運用・品質管理を強化するためにPMO組織を配置。品質を保持しながら計画的且つ効率的にプロジェクトを遂行し、赤字プロジェクト撲滅と収益力向上を実現。

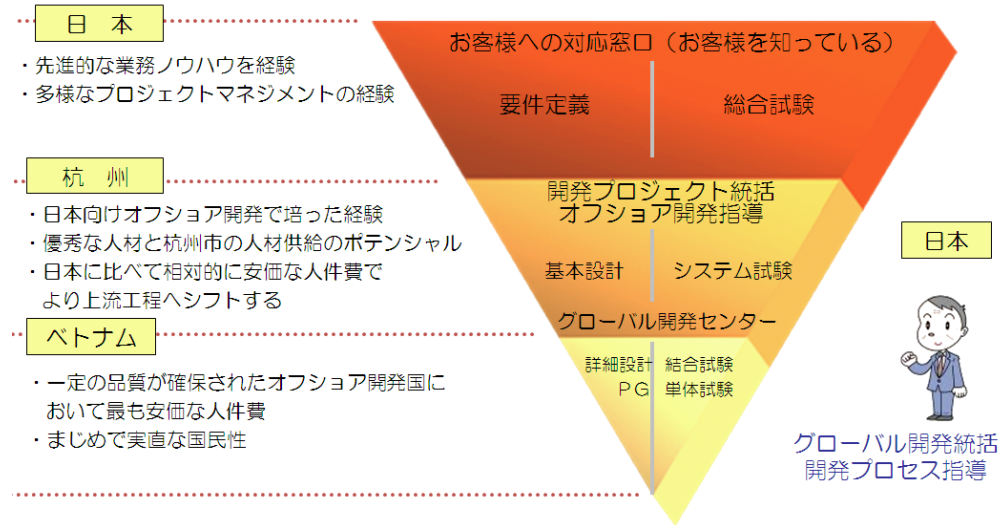
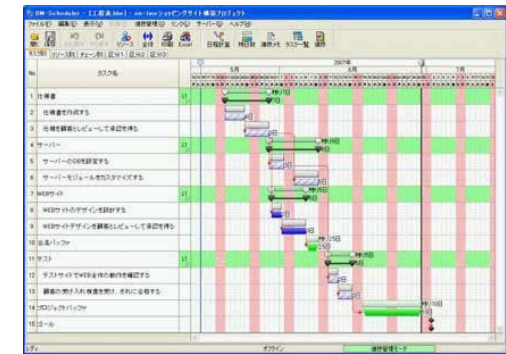
### 3. 人材マネジメントの強化

- ・ 中長期的な成長・拡大を支える人材に対する教育を重点的に実施。
- ・ 技術者資格の取得を推進し、早期の技術者育成を実現。

### 4. 国際分業の推進

- ・ アセアン地域におけるSE拠点として設立した「ヴィンクスベトナム」を活用したソフトウェア開発の国際分業化を推進し、システム開発の生産性向上を実現。

### プロジェクト管理ツール



# 新たな数値フレーム



単位：百万円、%、千万円未満切捨て

連 結	売上高		営業利益			経常利益			当期純利益		
		前年比		前年比	利益率		前年比	利益率		前年比	利益率
2012年度（実績）	10,836	118.3	80	—	0.7	132	—	1.2	59	—	0.5
2013年度（実績）	27,271	—	1,522	—	5.6	1,509	—	5.5	824	—	3.0
2014年度（計画）	28,800	105.6%	1,680	110.4%	5.8	1,650	109.3%	5.7	980	118.9%	3.4
2015年度（計画）	30,200	104.9%	1,790	106.5%	5.9	1,780	107.9%	5.9	1,080	110.2%	3.6
2016年度（計画）	31,700	105.0%	1,950	108.9%	6.2	1,930	108.4%	6.1	1,160	107.4%	3.7

単位：百万円、%、千万円未満切捨て

個 別	売上高		営業利益			経常利益			当期純利益		
		前年比		前年比	利益率		前年比	利益率		前年比	利益率
2012年度（実績）	9,274	111.7	98	—	1.1	98	—	1.1	24	—	0.3
2013年度（実績）	24,879	—	1,666	—	6.7	1,643	—	6.6	933	—	3.8
2014年度（計画）	26,640	107.1%	1,670	100.2%	6.3	1,680	102.3%	6.3	1,030	110.4%	3.9
2015年度（計画）	28,000	105.1%	1,800	107.8%	6.4	1,790	106.6%	6.4	1,110	107.8%	4.0
2016年度（計画）	29,400	105.0%	1,930	107.2%	6.6	1,920	107.2%	6.5	1,180	106.3%	4.0

（注）当社は、2013年4月1日付で株式会社ヴィクサスと合併いたしました。そのため、2013年度（実績）における前年比に関しましては記載を省略しております。

# 2015年3月期 数値計画（連結・個別）



単位：百万円、%、千万円未満切捨て

連結	通期			上期			下期		
	計画値	売上比	前年比	計画値	売上比	前年比	計画値	売上比	前年比
売上高	28,800	—	105.6%	13,900	—	102.5%	14,900	—	108.7%
売上総利益	5,820	20.2	107.3%	2,810	20.2	103.0%	3,000	20.1	111.3%
販売管理費	4,130	14.3	105.9%	2,020	14.5	103.4%	2,110	14.2	108.4%
営業利益	1,680	5.8	110.4%	780	5.6	100.6%	880	5.9	117.8%
経常利益	1,650	5.7	109.3%	790	5.7	109.6%	850	5.7	107.9%
当期純利益	980	3.4	118.9%	470	3.4	114.6%	500	3.4	121.1%

単位：百万円、%、千万円未満切捨て

個別	通期			上期			下期		
	計画値	売上比	前年比	計画値	売上比	前年比	計画値	売上比	前年比
売上高	26,640	—	107.1%	13,020	—	105.4%	13,610	—	108.6%
売上総利益	5,360	20.1	104.3%	2,640	20.3	104.1%	2,720	20.0	104.7%
販売管理費	3,690	13.9	106.3%	1,840	14.1	105.7%	1,850	13.6	107.0%
営業利益	1,670	6.3	100.2%	800	6.1	100.6%	870	6.4	100.0%
経常利益	1,680	6.3	102.3%	830	6.4	108.1%	850	6.2	97.3%
当期純利益	1,030	3.9	110.4%	510	3.9	113.8%	520	3.8	107.4%

# 当期及び次期の配当見通し

- 配当方針

当社は、株主様への利益還元を経営の重要課題のひとつとして認識しており、配当金につきましては、企業価値の向上とその水準の維持を可能とする範囲において、事業拡大のための内部留保を勘案しながら決定することを基本方針としております。

内部留保資金につきましては、今後予想される事業規模拡大のため新規事業及び新製品の開発に対し有効に投資してまいります。

- 配当見通し

(単位：円，1株あたり)

	中間配当金	期末配当金	年間配当金合計	配当性向（連結）
2013/3期（実績）	※1 1,000	※1 1,000	※1 2,000	105.8%
2014/3期（実績）	※1 2,000	※2、3 15	—	26.1%
2015/3期（予想）	10	10	20	17.8%

※1：当社は、2013年10月1日付で普通株式1株につき200株の割合で株式分割を行っております。2013/3期の前期実績及び2014/3期の中間配当実績につきましては、株式分割前の金額を記載しております。

※2：2014/3期の期末配当金の内訳につきましては、普通配当10円及び合併記念配当5円となります。

※3：2014/3期の期末配当につきましては、株式分割後の金額を記載しております。なお、当該株式分割を考慮しない場合の期末配当は3,000円となり、中間配当の2,000円と合わせて年間の1株当たり配当は5,000円となります。



## <本資料取扱のご注意>

本資料は当社をご理解いただくために作成されたもので、当社への投資勧誘を目的としたものではありません。

本資料の作成は、正確性を期すために慎重に行っておりますが、正確性・完全性を保証するものではありません。

本資料中の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、事業環境の変化等の様々な要因により、実際の業績は当社の公表している将来見通しとは大きく異なる結果となる場合があることをご承知おきください。

本資料に関するお問い合わせ

株式会社ヴィンクス  
企画本部 経営企画部  
e-mail : ir@vinx.co.jp